

2023年2月号

文化財再発見コーナー

おん こ ち しん
たかおか 温故知新

にしとうへいざう(とへざう)
西藤平蔵神社の歴史を伝える/
はちまんぐうしんでんえいたいきしんじょう
八幡宮神田永代寄進状

高岡市西藤平蔵の地名の語源は、藤原氏の流れをくむといわれる「藤の平蔵」が開墾した土地であるという伝承があります。千保川・庄川(旧中田川)の流路が変わったことで西藤平蔵と東藤平蔵に分かれたとされます。

写真の史料は延宝9年(1681)3月15日付の「八幡宮神田永代寄進状」です。西藤平蔵村肝煎(村長)長右衛門以下31名の氏子一同が、産土神(土地の神社)である「八幡大



「八幡宮神田永代寄進状」1681年
博物館蔵(西藤平蔵村文書)

神宮(八幡宮)」宛に出したものです。書状には、

神様に対し、「在所(村)繁盛、息災、延命」のため、村民一同が八幡宮に対し、「神田(米)」を8斗5升(約153kg)を追加して従来の5倍以上となる合計1石5升(約189kg)を永久に寄進し、社殿の建築や、将来の修復費用として、また「湯立」(大釜に湯を沸かし、巫女や神職が笹を熱湯に浸して体に向け、吉凶を占ったり、無病息災や五穀豊穡を願う神事)にあてるとしています。そして、もしこの米を着服したら、各々に神罰が下るであろうとも記しています。

この史料を含む西藤平蔵村の古文書一括は令和元年に村万雑会より博物館に寄贈されました。当時の人々の生活を知る貴重な資料です。なお、この八幡宮は明治42年(1909)に気多社(柳島)と八幡宮(浦村)と合祀され、西藤平蔵神社となっています。(仁ヶ竹主幹)

問合せ先 博物館 20-1572